

夏の終わりがけの8月22,23,24日と、韓国・釜山に行ってきました。今年の夏の暑さには閉口して、釜山なら少しはましかと思いつつ行きましたが、やはりそこも観測史上初めてという暑さだったそうで、ほとんどの若い女性は短パン姿でした。釜山で生足をたくさん見てきたという印象です。

今回はこちらが夏バテ気味だったので、ゆっくりスケジュールを組みました。22日、お昼に金海空港について、すぐ柳賛伊ホルモンが入っている養老病院にお見舞いに来ました。息子さんが迎えに来られて、娘さん(次女)の経営する食堂でお昼ご飯を食べました。シジミ・アサリ汁、太刀魚のソテー、セリの和え物、白菜キムチ、大根キムチ、卵焼き、青リンゴとすもものマヨネーズ和え、などなど。一つ一つが美味しくて大満足でした。

食後ゆっくりして、また養老病院に帰って、夕食までお話して、トランジスタラジオが欲しいと言われて、買って明日また来ると約束し、ホテルのある西面に行きました。近くの電器屋さんには売ってなくて閉店間際の釜田市場でやっと見つけて、選びようのない一個だけあったトランジスタラジオを買いました。考えたら殆どの方がスマートフォンを持っている韓国でこれは売れないだろうな思いました。翌23日午前中にもう一度賛伊さんの病院を訪れ、ラジオを渡し(大変喜ばれました)ゆっくりお話ししました。

88歳でますます日本語が上手になり、対話が途切れることはありません。(病院には日本語のできるお年寄りが何人もおられて、賛伊さんに日本人の友達がいるのは有名らしく、話したようにされていました。その中の一人のおばあさんと少し話しましたが、綺麗な日本語で植民地時代の長さを感じないわけにはいきませんでした)

今の病院での暮らし、家族の話、戦後の苦勞、不二越での苦勞、男も女も日本の戦争協力をさせられたがその時は幼くてよくわからなかったことなど、ゆっくり聞きました。養老病院では3人部屋に入られていましたが、この病院には400人の老人が入院していて、基本何人部屋でも月40万ウォン(約4万円)だそうです。これにオムツ代とか薬代とかがプラスされるそうですが、賛伊さんは薬も飲んでいないので基本料金だけで済んでいるとのことでした。元気なんだけれど家にいるとついつい掃除や料理や片付けをしまい疲れて転んだりするので、ここは安心だと言われていました。ただ、ご飯だけはどうにも我慢できないそうで、自分でおかずを作っておられて、娘さんや息子さんが材料を運んでおられました。本当に気丈で賢い方で、大いに学ばされます。

午後に朴順福ハルモニ(柳賛伊さんと同じく不二越に連れて行かれた)のお見舞いに行くことになっていたので、お昼前にお別れして一旦ホテルに戻りました。M さんと待ち合わせして、昼食をとり、順福さんの娘さんとの待ち合わせ場所の地下鉄沙下駅に向かいました。駅の真上の病院に入院されていて、そこは近代的な設備を整えた新しい病院でした。(この病院の基本料金は高そうでした)認知症が進んでいて娘さんは順福さんが私たちを覚えているのか不安だったそうですが、嬉しそうに迎えてくださって安心しました。

順福さんは今年のはじめ、家で転んで股関節骨折をして手術をされたそうです。ただ、あまりにも体力がなく、すぐに手術は難しく、点滴を打ち、食欲増進剤や栄養補助剤を飲んで体力をつけてから手術をしたそうで、昨年お会いした時よりもふっくらしておられました。まだ歩ける状態ではなく寝たきりだそうで順福さんの悔しさや娘さんの苦労がしのばれました。

お土産に日本の懐メロの CD と CD プレイヤーを持っていたのですが、歌詞カードをスラスラと読みながら時々涙ぐんでおられました。寝たきりの状態で 無念で情けないし、娘たちに申し訳ないとの気持ちが溢れてくるようです。

昨年お会いした時は同じことを繰り返し言われて会話にはならなかったのですが、今回の方が日本語での意思疎通が出来たようです。夕食の時間が来たので名残惜しみながらお別れしました。夜は西面繁華街のビルの 4 階にある菜食のレストランで食事しながら M さんとゆっくり話しました。

翌 24 日は何の予定も立てず、釜田市場をゆっくり見て回り、釜山の中心街の食の供給地を見て回ったという感じで、楽しい時間でした。のんびりして夕方の飛行機で帰国しました。

今回は「ゆるーい」韓国訪問で、ソウルの李順徳ハルモニにも会えなかったし、他にどなたにもお会いしなかったのですが、今の自分たちの体力に合わせた ゆっくりした時間でした。

